

1. 研究の背景・目的

2003年、大阪府は水の都大阪再生協議会を設立し、水の都大阪再生構想を策定するなど「水都大阪」の再生に取り掛かり、現在も進行中である。そのプロジェクトのひとつとして親水空間の再生が行われているが、再生された親水空間があまり利用されていない事例や、管理がうまくいっていない事例は少なくない。そんな中、木津川遊歩空間ではデザインと管理の両面で先進的な取り組みがされている。そこで本研究では木津川遊歩空間の計画と利用実態を明らかにし、親水空間の今後の可能性を検証する。

2. 木津川遊歩空間の計画

木津川は大阪市西部を流れる河川であり、今回の遊歩空間は大渉橋から松島橋までの左岸の240mにわたる区間に造られた。

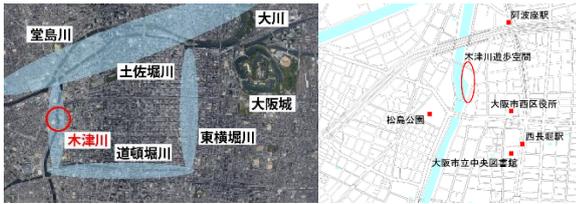


図1 水都大阪全体図 (左)

図2 木津川遊歩空間周辺図 (右)



図3 木津川遊歩空間の現状

木津川遊歩空間ができるまでのプロセスには先進的な試みがされている。2段階審査と応募者サポートシステムをセットにした公募の流れである。1次審査は参加資格を問わなかったため、40件のアイデアが提案された。2次審査で土木設計の専門家がアドバイスをし、最優秀プランが決定された。その後は地域ワークショップを行い、住民の意見を取り入れて詳細設計がされた。

遊歩道部分の供用がスタートした後もワークショップという形で、利用する人から様々な意見や要望を取り入れようとしている。8月24、28日に行われたワークショップでは男女合わせて27名にアンケートを実施している。

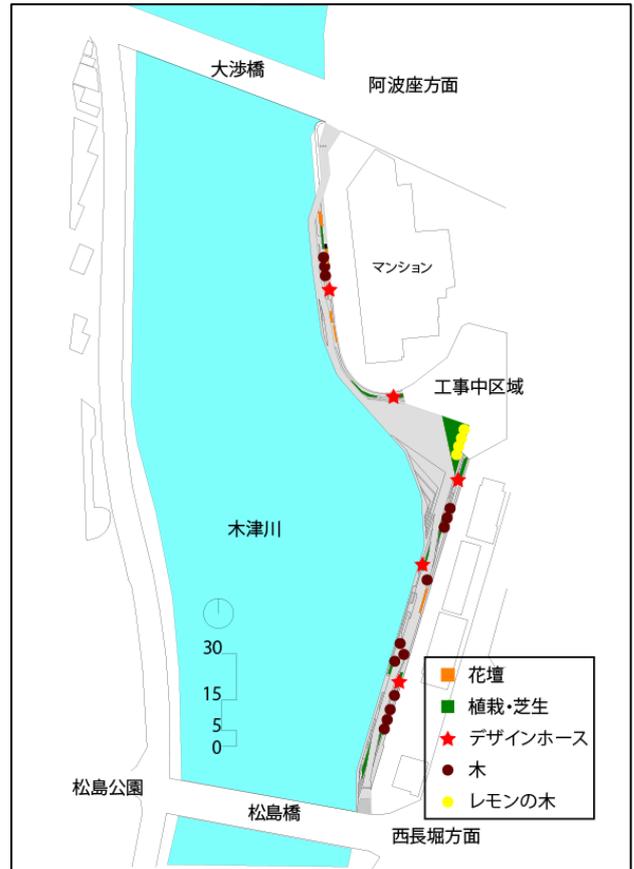


図4 木津川遊歩空間平面図・断面図



- 設計者 Ryoko Iwase (岩瀬 諒子) 氏
- タイトル 「だんだんばたけでハマベをつくる～立売堀のマーケットプレイス～」
- コンセプト 『現代に生きた「浜」を取り戻す：みずとまち、地域とひと、ひととひと、の対話の空間』

図5 岩瀬氏応募案 (空間イメージパース・概要)



図6 8月24、28日のワークショップの風景

3. 木津川遊歩空間の特徴

今回の計画では、今この場所の水とまちとひとつをつなげるためにさまざまな仕掛けを施している。

表 1 木津川遊歩空間の仕掛け

①柵の細さ	②段差	③レモンの木	④デザインホース	⑤素材
				
柵が細い支柱とワイヤーで作られている。	段差の下段は2～3段浸水する。ベンチに代わる座れる場所。	レモンの木を通して地域全体で育てる感覚を共有する。	花壇などへの水やりを通して意識を共有する。	段の表面を一般的なものと異なり柔らかみのあるものにしていく。
川との間に壁がなく身近に感じられる。	日常から川への危機管理を促す。	空間全体を共同で管理する意識を共有。	空間全体を共同で管理する意識を共有。	子供の利用者はケガ等をしにくくなる。

4. 木津川遊歩空間の利用の実態

設計者の岩瀬氏は「訪れた人ごとに様々な形の“居場所”を提供することがデザイン上の狙いだ」と話している。今回、この親水空間を訪れた人を対象とした調査を行い、設計者の意図したことが実現できているのかを調査した。

調査内容は訪れた人の年齢・性別・利用人数・利用時間・利用目的・座ったかどうかとその場所と時間である。現地にて目視による確認を行い、記録していく方法で調査した。

現地調査の結果として以下がまとめである。

- 木津川遊歩空間は1人で短時間の利用者が多い
- しかし座ったりしている人については自分の「居場所」を見つけることができている
- 自転車の乗り入れやたばこなどのルールについてはさらなる工夫が必要である

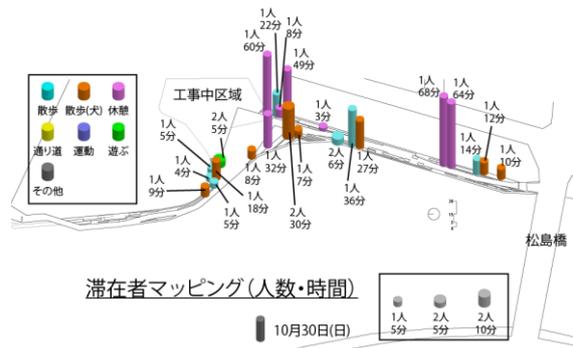


図 6 滞在者マッピング

5. 研究の総括と今後の課題

現地調査やアンケート調査より以下が総括である。

- 設計者が目指した「訪れた人ごとに様々な居場所を提供すること」や「川と人を近づけること」が実現されている
- 利用者は1人で短時間訪れる人が多いが1時間以上も空間内で過ごす人も存在するので、利用者ごとに違った利用ができる空間になっている
- 空間内でのルールやワークショップやイベントに関しては知らない利用者が多いため、わかりやすい掲示板等を設置して空間に関する情報を広めることが重要である

全体的に利用者はこの空間に対して満足している。親水空間を継続して様々な人に利用してもらうようにするには、このコンペの仕組みやワークショップなどは他の地域でも採用すべきである。

参考文献

- 岩瀬涼子：木津川遊歩道デザインプロセス LANDSCAPE DESIGN No.109 (株)マルモ出版 2016年
- 忽那裕樹：木津川遊歩道空間整備事業 LANDSCAPE DESIGN No. 109 (株)マルモ出版 2016年
- 船本直宏・寺浦薫：地域とデザイナーが連携する新しい公共空間設計～木津川遊歩空間の事例～
- 吉川勝秀・伊藤一正・長滋彦：都市と河川—世界の「川からの都市再生」— 技報堂出版株式会社 2008年
- 松浦茂樹・島谷幸宏：水辺空間の魅力と創造 鹿島出版社 1987年
- 大井智子：「ひな壇」で水辺とまちをつなぐ 日経コンストラクション 日経 BP 社 2016年

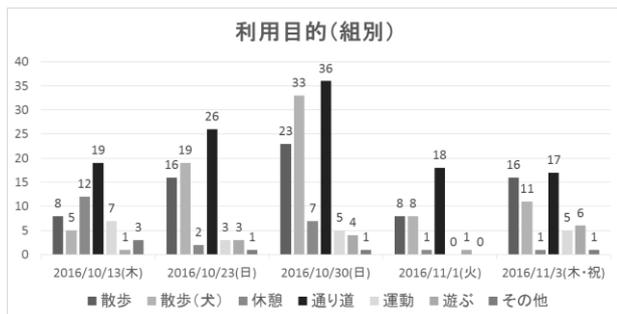
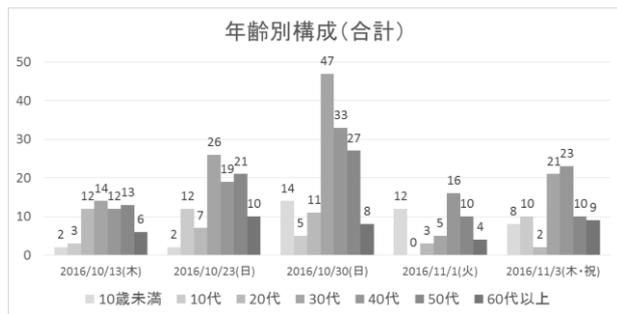


図 7 現地調査結果(利用者属性・利用内容)